そのほか、現在の栃木、群馬、埼玉、千葉などには兼載の教えをうけたいという大名や武士がたくさんいました。それらの人々の招きをうけて、兼載は主に北関東のあたりに何度か足を運びました。

関東地方は、そのころ、古河公方といわれた将軍足利氏の一門の人々が、将軍のかわりに勢力をおさえていました。兼載はこの古河公方、足利政氏に信用あつく、たびたび連歌を送ったりしていました。その縁で北関東の大名や武士からたびたび招かれていました。

永正三年（一五〇六年）兼載は、北関東の芦野というところに永住しようとしましたが、そこで中風という病気にかかってしまいました。知らせをうけた古河公方からは、さっそく見舞いの使がやってきました。

兼載の病気はなかなかよくなりませんでした。心配した古河公方は、永正五年（一五〇八年）になると、病身の兼載をわざわざ古河にむかえて、手厚くも